小学校

平成8年度

教育研究員研究報告書

社　会

東京都教育委員会

平成８年度

教育研究員名簿

分科会	地区	学校名	氏名
中学年	新宿	鶴巻小	風見由起夫
	台東	千束小	原　一枝
	江東	数矢小	佐藤　友信
	世田谷	松原小	久野　浩誉
	杉並	馬橋小	諸角　哲男
	立川	柏小	川嶋　弘
	目黒	八雲小	○山下　真一
	大田	東調布第一小	石川　郁雄
	荒川	小台橋小	松井　伸一
	足立	鹿浜小	下野紀久雄
第五学年A	墨田	緑小	粳田　順子
	世田谷	多聞小	小原　潤
	北	滝野川第七小	中里　満晴
	練馬	豊玉小	星　美登里
	葛飾	東柴又小	鈴木　和子
	三鷹	高山小	廣坂多美子
	昭島	成隣小	安田　牧子
	日野	平山台小	吉尾真理子
	多摩	北貝取小	○富田　大介

分科会	地区	学校名	氏名
第五学年B	品川	鈴ケ森小	斎藤幸之助
	中野	若宮小	栗原　康裕
	板橋	大山小	髙橋　慎二
	足立	入谷南小	髙橋美津子
	八王子	下柚木小	藤井　桂子
	府中	府中第六小	○田邉　佳伸
	小平	小平第十四小	今泉　尚敏
	武蔵村山	第九小	柿崎　洋一
第六学年	千代田	番町小	◎小林　勝人
	練馬	大泉第六小	赤尾　眞司
	江戸川	篠崎第三小	糸久喜美夫
	江戸川	清新第一小	○向井　一郎
	八王子	上館小	田中　洋子
	東大和	第五小	押本　明文
	神津島	神津小	岡部　君夫

◎全体世話人　　○分科会世話人

担当　教育庁指導部初等教育指導課指導主事　向山行雄

目　　次

Ⅰ　共通研究主題

学び合う社会科学習における教材の在り方

Ⅱ　研究の内容

1　中学年　分科会　かかわりを大切にした地域教材の在り方 …… 2

2　第５学年Ａ分科会　自分なりの考えを明確にもてる教材の開発 …… 9

3　第５学年Ｂ分科会　産業や環境保全に携わる人々の生き方に迫る教材開発の方法 …… 14

4　第６学年分科会　児童が互いにかかわり合いながら，自分なりの見方や考え方を深める学習活動の工夫 －多様な考えを引き出す教材を通して－ …… 19

<概　要>

○　変化の激しい今日の社会においては，児童の身近な社会的事象も刻々と変わり，とらえにくくなっている。そこで，これからの社会科学習では，児童が身近に感じる素材を吟味し，児童が意欲的に追究する社会科教材の開発を進める必要がある。

○　学校週５日制の月二回実施にともない，児童の学校外での生活の時間が増大し学校外での体験の質と量の差はますます増大しつつある。そのため，これからの社会科学習では，児童が共通に学習できる問題を設定し，児童が相互に啓発しあう授業への改善を図る必要がある。そこで，児童が互いに学び合い，社会的な見方や考え方を深める授業づくりを目指した。

○　研究の推進に当たっては，全体研究主題を設定し，それを受けて４つの分科会がそれぞれ研究主題と仮説を立て，先行研究に学びながらも主に授業実践を通して仮説の検証を行い，主題に迫るように努めた。

研究主題 ＜中学年分科会＞

かかわりを大切にした地域教材の在り方

Ⅰ　研究主題設定の理由

1　学び合う社会科学習

「人間というものは，人と人との間柄があって人間である」和辻哲郎の言葉である。彼は，人間らしく生きるためには人と人との心のつながりが重要だと語っている。

今日，重要課題としていじめ問題があるが，この背景の一つとして人と人とのつながりの希薄さがあげられる。これまでの授業実践でも互いの個性を尊重し，個々の違いを認め合う点では，十分とは言い難い。そこで，私たちは，これまで以上に児童一人一人の個性を生かし，分かりやすく楽しい授業をつくっていくことが大切であると考えた。そのためには，学び合い，励まし合い，支え合いなど人と人とのつながりを大切にした学習の在り方を見直していく必要がある。更に，その学習を進めていく上で拠り所となる教材，地域とのかかわりや内容なども吟味していくことが重要であると考えた。

2　かかわりを大切にした学習

社会科の学習においては，社会的事象への主体的なかかわり，友達や教師とのかかわりなど，様々な対象とのかかわりが考えられる。本分科会では，学習活動における友達とのかかわりと地域教材による地域とのかかわりの二つを重点とした。

友達のかかわりでは，そのかかわりを通して，児童一人一人の見方や考え方の異なりに気付くようにすることを目指した。金子みすゞの詩に「みんなちがって，みんないい」という一説がある。かかわりを通して友達との違いを知ることが友達のよさに気付き，学ぶことや認め合うことにつながり，ひいてはものの見方や考え方を広げ，深めていく大きな力となる。

地域とのかかわりでは，地域の社会的事象や人の営みを客観的にとらえるだけでなく，地域に生きる者として，身近な地域に積極的にかかわっていける態度や能力の育成を目指した。学習したことを生活に生かしていけるように地域教材の吟味や活用を考えたのである。

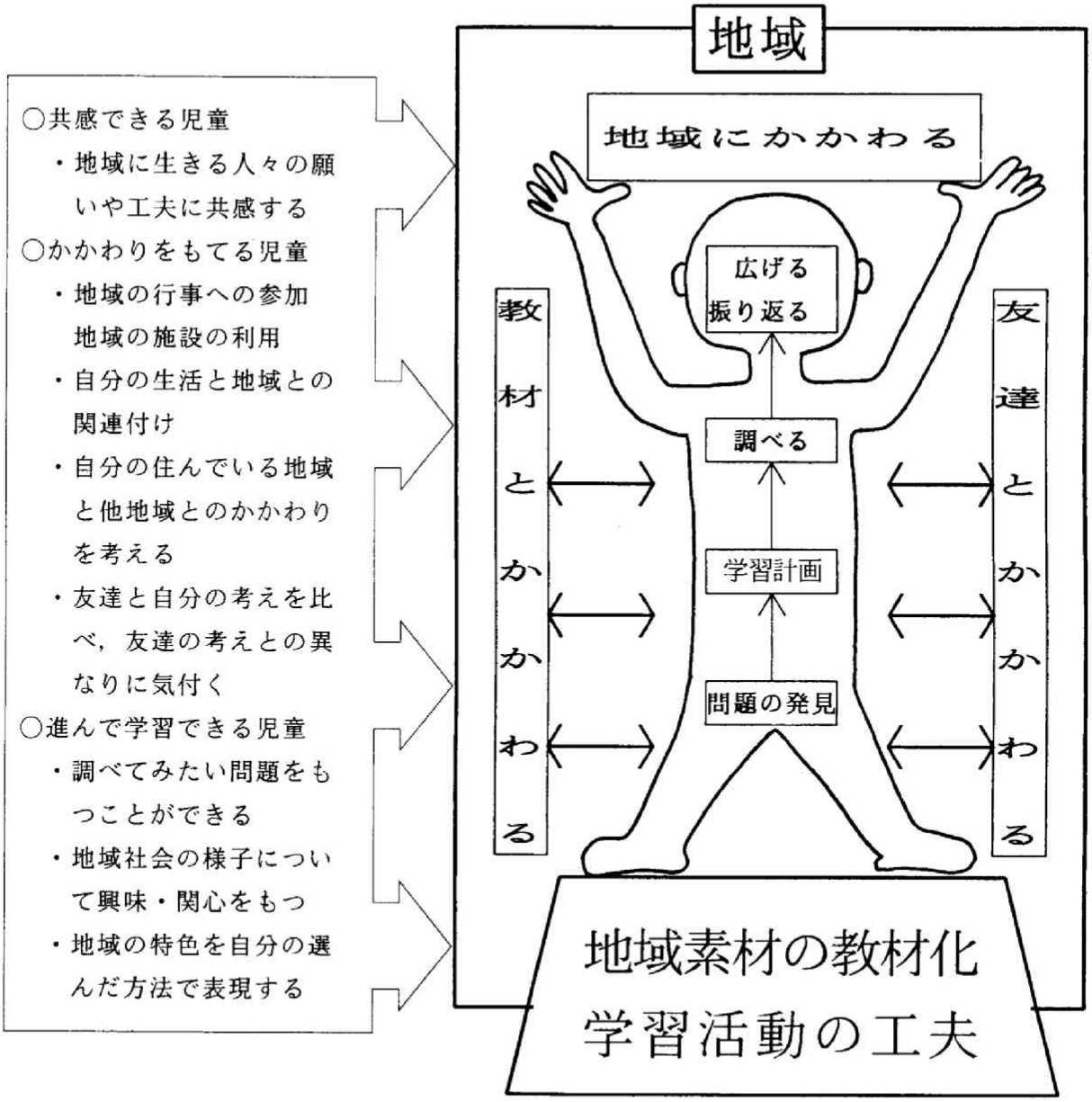
3　なぜ，今，地域なのか

町探検で古井戸を見付けたＡ君は，その後の学習でも古い物に目を向けた。まとめの感想では，「古い物があると分かってよかった。また町探検をしたい。」と書いている。またコンビニエンスストアを調べたＢさんは，店長との話から店の工夫や仕事の大変さに気付き，「初めて知ったことはとてもおもしろかった。」と感想に書いた。これまで気付かなかった地域の事物・事象や人の営みを知ることは，児童にとって発見であり，喜びになっている。「文部省小学校指導書社会編」では，地域について学習することの意義として，①個々の社会的事象を意味付ける②社会生活の原則を発見させる③社会の発展を願う気持ちを養う④社会的能力を形成するの四点をあげている。

私たちは，このことを基に，中学年の児童にとって，今，地域を取り上げる意義とは何かを検討した。そして，以下の二点に重点をおいた。それは，①地域社会での学習を通して学習活動が広がる②様々な人たちとのふれあいを通して，児童の社会に対する目が広がる，の二点である。そして，更に，地域社会への愛情や帰属意識を深め，地域社会の発展を願う態度の育成につながると考えた。

4　地域に主体的にかかわっていく児童を目指す

児童の実態を基に本分科会では，地域に主体的にかかわっていく児童を目指すために，育てたい児童の姿を，「自分の考えを友達とかかわり合いながら進んで調べ，地域を大切にしていける子」と考えた。さらに，具体的に育てたい児童の姿を以下のように考えた。



Ⅱ　研究のねらい

どのような教材を用意し活用していけば，児童が教材や友達とかかわりながら地域の特色に気付くことができるのかを明らかにする。

Ⅲ　研究の仮説

児童にとって身近で，具体的な人間の営みが見える地域教材を用意し，学習活動を工夫すれば，児童は教材や友達とかかわりながら地域の特色に気付くようになる。

Ⅳ　研究の内容と方法

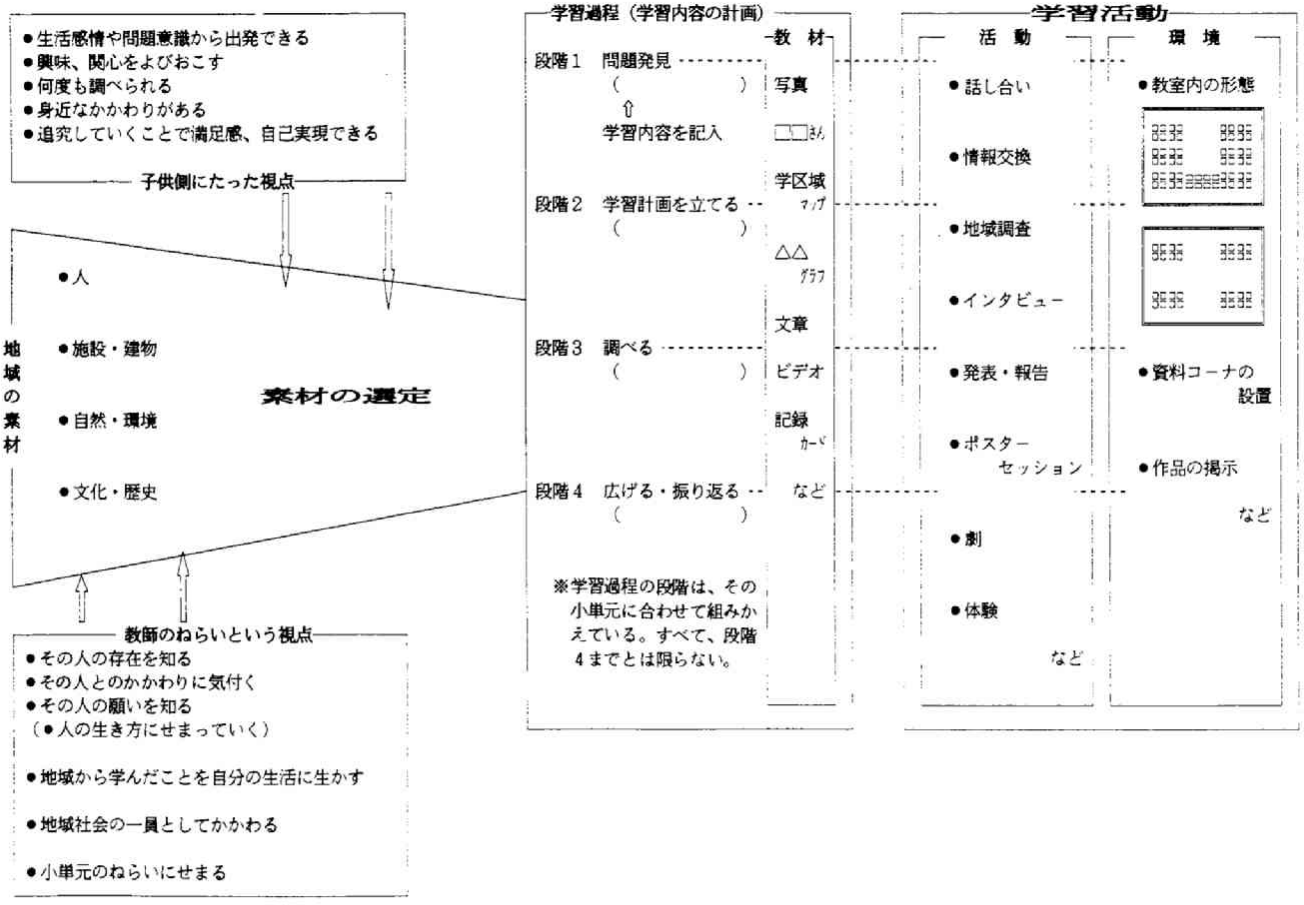
1　教材化の方法を明確にする

本分科会では，児童が地域に主体的にかかわっていくためには，どのような教材を用意し，活用していけばよいのかを，地域素材を教材化する段階から考え，下記のように教材化の方法を構造図に表し，研究を進めてきた。

地域には単元を展開するために役立ちそうな素材がある。しかし，その素材すべてが，児童にとって適切な地域教材になるとは限らない。そこで，地域素材を①人　②施設・建物　③自然・環境　④文化・歴史に分類し，よりよい地域教材となるものを選定することにした。

この選定では，二つのフィルターを設けた。一つは，児童の側にたった視点である。“地域素材が児童の意識や生活感情に近いものか”や“追究していくことで児童に満足感が得られるか”等の視点でフィルターに通すのである。また，もう一つは，教師のねらいという視点である。その素材を通して，小単元のねらいに迫ることはもちろん，“児童が地域とのかかわりに気付けるか”や“自分の生活に生かせるか”等の視点でフィルターに通すのである。この二つのフィルターによって選定された素材を本分科会では，教材と呼び，どこで活用するかを考えながら，学習過程に組み入れた。また，学習過程を考えていく際，教材が効果的に生かせるよう，学習活動における活動や環境をどのように組み入れていくのかを考え，それがどのようにかかわっていくのかが明確になるように構造図に表した。

構造図（教材化の方法）

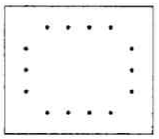


2　学習活動の在り方を探る（活動と環境を一体としてとらえる）

児童が，地域に主体的にかかわっていけるようにするためには，どのような活動をどのような環境の中で行うことが有効であるかを明らかにしたいと考えた。本分科会では，活動と環境を一体として学習活動の在り方を探り，授業実践を通して考察した。

【第３学年「学校のまわりのようす」実践】

（貼り込み）

地域とのかかわり	教材とのかかわり		教　材	活　　動	環　　境		友達とのかかわり
○学校のまわりの様子に興味・関心をもてた。 ↓ ○学校のまわりの人や建物について様々な気付きをもてた。 ◎草かりをしているおじさんがいた。 ◎学校の西側に米屋がある。 ◎猫よけのためのペットボトルが多い。 ↓　等	○身近な建物等の写真なので，興味をもつ児童が多かった。	←	学区域のいくつかの場所の写真	・画面の写真は，どこにある，何の写真か考え，発表する。	・コンピュータ室（実物投影機）	→	○二人一組で協力して何の写真か探す姿が見られた。
○１回目の探検を基に，町を見る視点が明らかになった。 ◎町にある古いもの。 ◎店はどこに多いか。 ◎車の多い道 ◎どんな建物が多いか。 ◎緑の多い所はどこか。　等 ↓ ○自分たちの探検した方角の特色に気付くことができた。 ↓ ○学区域の特色が分かるとともに，もう一度，地域を調べたいという意欲をもてた。 ◎遊歩道について調べたい。 ◎古いものをもっと調べたい。 ◎今度は店の中を調べたい。	△地図の見方が不十分で，コースを間違えるグループもみられた。	←	探検のコース図 探検カード	・発見したことを「探検カード」に記入したり，写真を撮ったりしながら探検する。	・地域（学校のまわりを一回りするオリエンテーリング）	→	○カードの記入や写真に撮る場所等，相談しながら探検していた。
	○自分たちの撮った写真を使ってカードを作成するグループが多い。	←	自分たちのカード及び写真	・探検してわかったことの発表のための「発見カード」を作る。	・教室（グループごとの席）	→	○どの発見を誰が発表するか，相談しながらカードの作成ができた。
	○大きなマップの上にカードを置きながら発表したので，発表が全体のものになった。	←	大きな探検のコース図 発見カード	・「発見カード」を発表し合う。 ・詳しく調べること（２回目の探検の視点）を発表を基に決める。	・教室（椅子のみ） 	→	○自分の発表以外にも友達の発表の番を教えてあげる等，児童同士のつぶやきがたくさん見られた。
	○２回目の探検のため，地図の見方も慣れてきていた。	←	グループ毎の探検のコース図 探検カード	・２回目の町探検をする。	・地域（東西南北の４コース） グループごとに探検	→	○探検の視点にそって，誰が中心になって調べるか決めて探検した。
	○副読本を基に絵地図づくりを行ったが，記号等を自分たちで工夫しながら意欲的に行った。	←	探検のコースの大きな地図 探検カード 写真	・２回目の探検を基に「絵地図」を作る。	・会議室（床に地図を広げて作業）	→	○店の多い場所については誰が中心になって作業するかなど，話し合って決めていた。
	○自分が探検に行っていない方角について，「絵地図」を基にたくさん質問していた。	←	各グループの「絵地図」	・各グループの「絵地図」を発表し合い，学区域全体の特色について話し合う。（ポスターセッション）	・会議室 	→	○発表をする児童同士，協力して発表した。 また，その都度色々な質問が出されていたため発表を修正しながら次の発表をした。

3　児童の学びの姿を明らかにする

個々の児童が，どのように学んでいるのか，以下のような学びの姿の項目を設定し，観察対象児を中心に学びの姿を明らかにしていくこととした。日頃の児童の様子を把握し表に表すとともに，学習を通してどのような変容が見られたか考察した。

	関心	友達とのかかわり	地域とのかかわり	社会的な発想，考え	思考の深まり	資料活用	表現活動
A児							
B児							

Ⅴ　授業分析「コンビニやスーパーのひみつをさぐれ！」（３年）

１　教材や友達とかかわりながら，自分の考えを深めていった児童

児童の学びの姿

関心	友達とのかかわり	地域とのかかわり	社会的な発想，考え	思考の深まり	資料活用	表現活動
◎	○	○	○	○	○	○

教材に対する児童の姿・教師の願い

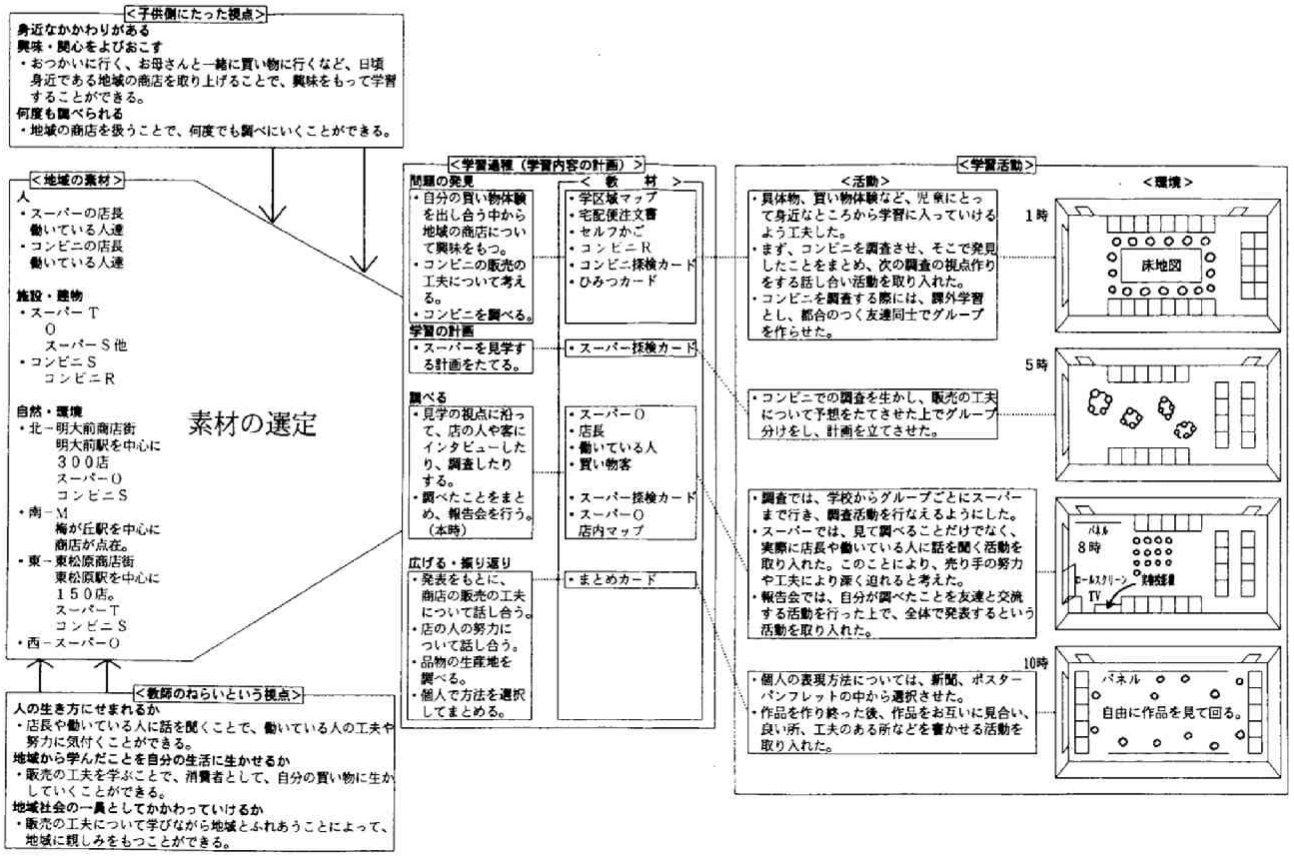
教材に対して素直に，前向きにかかわることのできる児童である。ただ，自分の考えに自信がもてないところがある。自分の考えをもち，友達とのかかわりの中で，その考えを深めていけるように支援していきたい。

ＯＨＰでスーパーの平面図を投影し，「これなんだと思う？」と発問した。Ａ子は，真っ先に「スーパーおがわだ！」と反応した。その後，どこに何が売られていたか一つ一つ確認しながら，自分の見学の発表に向けて，徐々に気持ちを高めていった。

前時までで，児童は，コンビニエンスストアの学習を基にスーパー見学の視点を決め，実際に調べに行っている。本時の学習は，スーパーとコンビニエンスストアを比較しながら話し合うことにより店の販売の工夫に迫ろうというものであった。Ａ子はコンビニエンスストアの学習で，そこでは24人が働いているということを知った。そして，「スーパーは，もっと広いからたくさんの人が働いているだろう。」と予想し，見学に行ったところ，店長さんから，スーパーでは，26人が働いているという話を聞いた。そしてスーパー見学の報告会である本時に，その発表をした。すると，「スーパーのほうが広いから，働いている人数も多いに決まっている。」という意見が出た。そこで，Ａ子は，「それにしてもコンビニの人数と２人しか変わらない。それは，コンビニは24時間やっているからたくさんの人がいて，交代で働いているのではないか。」と発言した。すると，他の子が「調べた時に，４時間交代で働いているって店長さんが言ってたよ。」と発言した。Ａ子は，自分の考えを基に発言することにより，友達とかかわりあいながら，自分の考えを確かなものにしていった。

本小単元の学習では，コンビニエンスストアやスーパーの店長さんや，働いている人達にインタビューする活動を大切にした。そのことで，児童が，地域を自分の身近なものとしてとらえることができるようになってきた。Ａ子についても，進んで店長さんや店の人に質問し，かかわっていることが感じられた。また，コンビニエンスストアの調査を基に視点を決め，スーパーの見学に行ったことで，報告会では，友達の意見に付け加えをしたり，時には反対したりしながら，考えを深め，児童の事実認識がより確かなものになった。

2　「コンビニやスーパーのひみつをさぐれ！」の構想図



3　実践を通して明らかになったこと

(1)　コンビニエンスストアを教材として扱ったこと

・児童の気付きが多かった。販売の工夫についての様々な情報がとらえやすい。

・コンビニエンスストア→スーパーの学習の流れは，調査の視点がもちやすい。比較する中で，販売の工夫に迫ることができた。

・児童にとって大変身近である。興味・関心をもって学習できた。

(2)　学習活動・環境

・教具の工夫（ＯＨＰ，実物投影機）が，教材を生かすことにつながった。

・写真を撮ることで，発表の意欲付けとなった。

・友達の意見に付け加えをすることで，事実認識が確かなものになった。また，友達とかかわりあうことができた。

・調査の視点に沿って板書することで，考えを整理しやすくなった。

(3)　課題

・消費者の工夫→販売の工夫という流れでなく，販売の工夫→消費者の工夫という流れをとったが，消費者としての視点をもつようにした上で，販売の工夫をとらえるようにした方が効果的であった。

・今回のような一斉発表，質疑応答ではなく，グループ発表，友達と情報を交流してからの報告会，ポスターセッションなど，友達とのかかわりをもつことのできる学習活動を工夫する必要があった。

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

○　地域には，様々な素材がある。素材を教材化するにあたり，児童の側にたった視点，教師のねらいという視点の２つのフィルターを用意することにより，素材の選定の仕方が明らかになった。特に，児童から見た地域という視点は，児童が，主体的に地域にかかわるためには重要な視点であり，児童の学習意欲を高めるためにも大切なものであった。

・身近な商店街を教材化することにより，地域の人に触れ，焦点の工夫を知るとともに現在，商店街が抱えている問題にも目を向けられるようになった。
（第３学年「千束通り商店がい」の実践より）

・児童の利用頻度の高いコンビニエンスストアを教材化することにより，商店に対する興味・関心を高め，販売の工夫についての情報に対して豊かな気付きが生まれた。
（第３学年「コンビニやスーパーのひみつをさぐれ！」の実践より）

○　活動と環境を一体として学習活動の在り方を考え，授業を行い考察した結果，児童相互のかかわりの姿や，教材に対するかかわりの姿が明らかになってきた。

・探検活動によって，児童の意欲を高めるとともに，実際の見学により地域の特色を知ることができた。その際は，少人数のグループで行うと，児童同士の協力等のかかわりが見られた。（第３学年「学校のまわりのようす」の実践より）

・交通事故を防ぐために従事している地域の人々（警察官・交通指導員等）に対して，聞き取る調査活動を通して，仕事の様子や苦労・願いなど人の生き方に触れることができた。（第４学年「交通事故から私たちの安全を守ってくれる人々」の実践より）

・グループごとに表現方法を考え発表会を行うことにより，他のグループの発表を意欲的に聞くことができた。（第３学年「千束通り商店がい」の実践より）

・自由に移動できる空間で，情報交換することにより，友達の考えを知るとともに，自分の考えに自信を持てるようになった。
（第４学年「玉川兄弟の知恵と工夫とは？」の実践より）

・ポスターセッションのような発表形式を行うことにより，一方通行の発表から，相互交流の発表となり，情報が個々の児童のものになっていった。
（第３学年「学校のまわりのようす」の実践より）

○　児童個々の学びの姿を，項目を決め把握したことにより，個々の児童の関心や友達とのかかわり，地域とのかかわり等の傾向をつかむことができた。また，授業の中で個々の児童を生かせるような指導を行うことができた。

2　今後の課題

○　教材化の２つのフィルターについて，視点が適当であるか，あるいは，他の視点もあるのか，検討していく必要がある。

○　児童が，友達と，よりかかわれる活動・環境，教材にもっとかかわれるような活動・環境はどうあるべきかを検討する。

○　個々の児童の学びに対しての，支援・評価の在り方について検討する。

研究主題　＜５年Ａ分科会＞

自分なりの考えを明確にもてる教材の開発

Ⅰ　研究主題設定の理由

児童を取り巻く社会の状況が大きく変化していく中，これからの時代を担う児童には，その変化に主体的に対応しながら生きていく力が求められている。その都度直面する社会生活上の諸問題に対して的確に判断を下し，問題解決にあたっていく力を一人一人の児童に身に付けさせていくことは，社会科のみならず，今日の教育に課せられた重要な課題である。

児童に主体的に問題解決にあたる力を身に付けさせていくためには，児童自らが問題意識をもち，考えてみたい，追究していきたいと感じる魅力ある教材を提示することが大切である。

児童に追究の意欲を起こさせる教材とは，第一に，児童が課題を自分に引き寄せてとらえることのできる教材である。教材のもつ価値内容が自分自身の切実な問題となったとき，児童は自ら進んで追究を始めるであろう。そのためには，児童が現実の社会的事象をどのような感覚でとらえているのか，児童の社会的な見方を教材づくりに生かす必要がある。

追究意欲を喚起する教材の第二は，社会の変化の視点から内容を構成した教材である。過去から現在に至る社会的事象の変化，そして現在から将来に向かっての変化の予測，その変化に人々はどのように対応してきたのか，そして，自分自身はこれからどのように対応していこうとするのか，自らに問いかけながら調べていくことのできる教材が望ましいと考える。

自分自身の問題としてとらえられれば，児童は，自分の考えを友達に聞いてもらったり，友達の考えも聞いたりして，その解決に向けて努力していくであろう。そこには学び合いが生まれ，学び合う中から，自分なりの考えが次第に明確になっていく。

人間関係が希薄になり，他人とかかわれない児童が増えているという問題が生じている中で，自分なりの考えをはっきりと言い合い，友達とかかわり合いながら学んでいくことのできる児童を育てることは，社会の要請でもある。そのような学習を積み重ねた児童は，変化の大きい社会の中にあっても，自ら判断し主体的に生きていく力を身に付けることができるのではないかと考えた。そこで，学び合いのある社会科学習を目指して，自分なりの考えを明確にできる教材を開発しようと考え，上記の研究主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

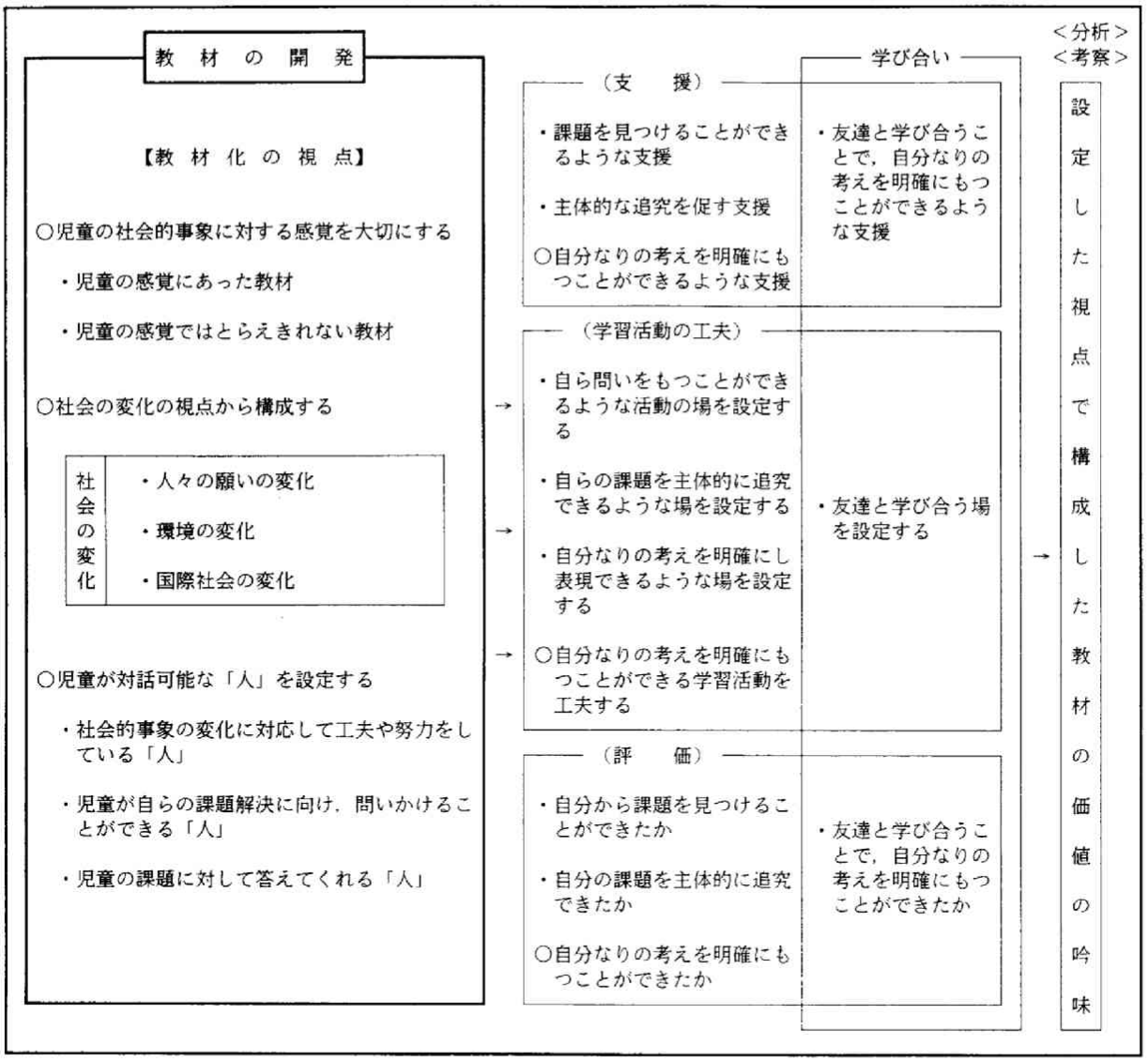
自分なりの考えを明確にもてる児童を育てるためには，どのような視点から教材を開発したらよいのかを明らかにする。

Ⅲ　研究の仮説

自分なりの考えを明確にもてる児童を育てるためには，児童の社会的事象に対する感覚を大切にした教材が必要であり，社会の変化の視点から構成した教材，対話が可能な「人」を設定した教材が有効である。

Ⅳ　研究の内容

1　研究の構造



2　研究主題について

本分科会では，研究主題「自分なりの考えを明確にもてる教材の開発」について，次のように考えている。

「考えを明確にもつ」とは，自分の考えが学習過程を通して深まりをもった考えになることである。児童が，自分の感覚でとらえた問題意識が，自分自身の追究や友達との学び合いを通して次第に確かなものになっていく。単元の学習の最終段階で，そのような変容が見られるような教材をつくっていきたい，というのが研究主題の意図するところである。

3　教材化の視点

(1)　児童の社会的事象に対する感覚を大切にすること

児童は，児童自身を取り巻く社会から様々な影響を受けて成長してきている。そして，その社会は，児童の育ってきたここ10年余の間にも大きく変化している。現在の社会を生きて

いる児童が，現在身の回りに起こっている社会的事象をどのような感覚でとらえているのかを吟味することは，変化の激しい社会にあっては，常に必要なことである。

「児童の社会的事象に対する感覚」というフィルターを通すことによって，現在の社会的事象に対する児童の興味・関心に寄り添い，児童の感覚に合った教材を提示する。あるいは，一面的で偏ったものになりがちな児童の感覚ではとらえ切れない教材を提示して，児童に矛盾や驚きを起こさせたりする。どちらの側面から迫るにしても，このフィルターを通した教材は，児童が自分の身近に引き寄せ，実感的に理解できる教材となり得ると考えた。

(2) 社会の変化の視点で教材を構成すること

本分科会では，「社会の変化」のうち①人々の願いの変化　②環境の変化　③国際社会の変化の３つを重点としてとらえた。これらの変化のいずれかに視点をおいた教材を構成し，児童に与えることにより，次のような利点があると考えた。

・変化の事実や原因，変化の過程などに対して興味・関心が生まれ，追究の意欲がわく。
・変化に対応している人々の工夫や努力を見ることができる。
・「自分だったらどうするか」という変化への対応を考えることにより，課題を自分に引き寄せて，自分なりの考えをもつことができる。

このように社会の変化の視点で教材を構成することにより，児童に課題意識をもたせ意欲的な追究を促すことができると考えた。

(3) 対話が可能な「人」を設定すること

興味ある教材と出会った児童は，教材から自らの課題をもち，その課題を解決しようと教材に問いかける。教材は，その問いかけに答えてくれる。そのような「対話」のできる教材が望ましい。

ところで，社会的事象の変化の事実を取り上げるとき，児童は目に見える事象の変化だけを追っていくことになりがちである。事象の変化を追うだけでは，教材とのかかわりに切実感は生まれにくく，児童が自ら問題意識をもって追究することはできない。

むしろ，社会的事象の変化の背景には「人」がいることや，社会の変化を支えているのは「人」の営みであることを知れば，児童はこの「人」とかかわりながら主体的に学習を進めていくことができるであろう。「人」とのかかわりがあるからこそ，児童はこの「人」に問いかけて課題を解決したり，また，この「人」が語ってくれることで新たな疑問を見出したり，発見をしたりすることができ，意欲的な追究をすることができるのである。

このように，社会的事象の変化の背景に「人」の営みが見えるような教材であれば，児童はこの「人」と対話をし，社会的事象の理解を深めていくことができると考えた。

Ⅴ　仮説の検証

1　実践例　～「自動車の開発にたずさわる人々」の授業実践より～

本分科会では，「自動車工業」単元を，開発→国内生産→海外生産という小単元の配列にした。「開発」を単元の最初に取り上げることにより，児童にとっては，自分たちの願いが人々の工夫や努力によって新型車として現実化していく過程を学習していくことになる。

以下に実践例を示す。

本実践における観察対象児の考えの変容

学習過程	時	学習活動	教材	教材との対話	学び合い（友達とのかかわりあい）	M児の考え
問題の発見・明確化	①	1台の自動車を観察し，気付いたことや感想をまとめ発表し合う。	1台の自動車	○「先生の車大きいかな」と予想をもち，意欲的に観察する。 ・とても大きい。 ・車の後ろに予備のタイヤがある。 ・チャイルドロックがある。 ・小さいサイドミラーがある。 ・いろいろな油が使われている。 等に気付く。	＜観察＞ ・「デザインはどうだろう」「色はどうか」と予想し合いながら観察する。 ・友達の質問をよく聞いていて，その答えをカードに書き込む。 ＜発表＞ ・「車にはいろいろな油が使われている」と発表し，友達の発表をよく聞く。	☆チャイルドロックの他はほとんど知らないことばかりで，びっくりした。一番びっくりしたのは，いろいろな油を使っていること。 ☆みんなの発表を模造紙にまとめたものを見たら，車1台にいっぱいの情報がつまっていることがわかった。
	②	新聞広告等を見て自分の乗りたい自動車について調べ発表し合う。	広告	○次のような情報を探し出す。 ・マルチマチック ・両席SRSエアバッグ ・4輪ダブルウィッシュボーンサスペンション　等 ○自分の乗りたい車を考えた。	＜調べる＞ ・グループで話し合いながら調べる。 ・友達の相談にのってあげる。 ＜発表＞ ・友達の発表をよく聞く。	☆私は酔いやすいので，乗り心地のいいサスペンションがいい。あと，中が広くて，安全な車がいい。いすが平らになって寝そべる車がいい。 ☆友達の発表で新しい情報が分かった
	課外	先生達や家の人に自動車についてインタビューする。	先生や家の人へのインタビュー	○インタビューしたことをまとめる。（先生）「こまわりがきく」ことが気に入っている。排気ガスが空気を汚すことが不満。電気自動車が欲しい。等（家族についても同様にまとめる。）	＜インタビュー＞ ・グループでインタビュー。 ・他の児童が質問した内容を確実にメモしていた。	☆むずかしい言葉がたくさんあったので意味を聞いた。意味を聞いたら，わかってきたことがたくさんあった ☆電気自動車を初めて知った。こんな自動車があるんだなと思った。
	③	インタビューしたことをまとめ，考えたことを話し合う。	先生や家の人へのインタビュー	○先生へのインタビューで調べたことを発表する。 ○家の人へのインタビューの内容を発表する。	＜発表＞ ・友達の意見をうなずきながら聞く。 ・「今と同車種で新型が欲しい」「横たわることのできる自動車（広い）」に「なるほど」の意思表示をする。	☆広い車がいいという意見がたくさんある。私も広い車がいい。 ☆アンケートの中では，次に買いたい車として，具体的な車の名前が出てこないと思った。
	④	マーチの資料から共通学習問題をもち，さらに自分の学習問題を作る。	旧型マーチの広告 登録台数のグラフ Hさんの話 旧型マーチの広告 旧型マーチの写真	○感想を持つ。 ・あまりデザインがよくない。 ・売れてないと思う。 ○感想を持つ。 ・下がると思ったのに上がった。どうしてだろう。 ○60ケ所以上かえるなんてすごい。 ○よく見て学習問題を考える。 ・色を変えた。車内を広くした。 ・形を人気のある形にした。等 ○一番初めに見に行く。	＜観察・発表＞ ・友達の発表を聞きながら，同じ意見にはうなずいたり手を挙げたりする。 ・友達の発表を聞く。 ＜考えをワークシートに記入＞ ＜発表＞ ・友達の発表を聞いて書き足す。 （なるほど）・エンジンをよくした。 ・安全性をよくした。等 （違うかな）・エアバッグは92年にはなかったのでは？	☆今の車は丸っこいのに，この車は角ばっているから，古いかなと思った。 ☆私と同じ考えがたくさんある。 ☆みんなの発表したことのほとんどが本当に変えたことではないかと思う。 ☆マーチの形が丸っこくなったのでは？と予想して，学習問題を決めた。 ☆排気ガスについて調べる人がなく，また関心もあるので2つ目の問題も付け加えた。
				共通学習問題 Hさんたちは，マーチを人気のある自動車にするためにどのように変えたのだろう。		
				M児の学習問題（調べたいこと） ＊車の形を人気のある形にしたのだろう。どんな形にしたのか，何をヒントにしたのかも知りたい。 ＊排気ガスをきれいにするのはどうやってしたのか。		
問題の追究	⑤・⑥	自分の学習問題を調べる。	資料集 VTR（開発） パンフレット	○自分の学習問題に関係するページを探し出し，熱心に調べる。 ・茶室をヒントに，緑色を考えた。 ・エンジンを昔のマーチよりも排気ガスの出ないエンジンにした。 ・フロンを使わないエアコンに。等 ○気付いたことをメモに取る。 ・会議→デザイナーが絵を描く→粘土で形を作る→実験 ○資料で調べたことを確かめる ・実際の車の色・エンジンの内容	＜調べる＞ ・同じテーマの友達と一緒に調べる。 ・自分の調べが終わった後，他のテーマの友達と一緒に調べながら，相談にのっていた。	☆マーチは女性向きの卵形のかわいい車にしたこととかぎまで卵形にしたことが一番注目したことです。茶室などいろいろなものをヒントにしてマーチを開発したのはたいへんだったろうなと思う。 ☆昔のマーチよりも排気ガスの出ないエンジンにしたりして，いろいろな努力をして，地球に優しい車，マーチを作ってしまうなんてすごいなーと思った。
概念化	⑦	それぞれの学習問題について調べたことを発表しあう。	調べたことをまとめた作品	○他の問題についてもたくさんのことが調べられたことに気付く。	＜発表＞ ・自分の考えをまとめ，発表する。 ・友達の発表を熱心に聞く。 ・友達の発表の要点をメモする。	☆環境だけではだめ。デザインだけでもだめ。エンジンだけでもだめ。色々なところを変えてマーチの開発は成功した。
	⑧	開発に携わった人たちへ学習のまとめの手紙を書く。			☆マーチの売れ高がグーンと上がっているのを見て驚きました。60カ所も変えて売れたのですね。4年半かけて苦労したのですね。新しいマーチの形にはヒントがありました。エンジンも排気ガスをきれいにするために工夫してあるのですね。みんなの発表には開発の裏に会議，苦労，実験，たくさんの人々，検査等が出てきました。こうして新しいマーチができたのだなと思いました。マーチの開発が大成功して良かったなと思いました。	

2　考察

明確な考えをもてる児童を育てるために，研究仮説として掲げた教材化の視点の有効性について考察する。

(1)　児童の社会的事象に対する感覚を大切にする

児童は，日常よく自動車を利用しているが，自動車についての詳しい内容はよく知らないという実態があった。そこで，１台の自動車の構造や仕様などの観察，新聞広告調べ，家の人や先生へのインタビューなどをさせることによって，自動車に込められた多くの技術や人々の多様なニーズに気付かせていった。このことにより，児童は，自動車を見る新たな視点を得て，興味・関心を高め，「自動車の開発」について意欲的に追究していくことができた。

(2)　社会の変化の視点から構成する

新型車の開発に携わる人々の仕事それ自体が社会の変化への対応であり，その際の社会の変化は，消費者の願いに直結していて，児童にとってはとらえやすかった。児童にとっては，自分たちの願いが人々の工夫や努力によって現実化していく過程を学習していくことになり，自分とのかかわりで教材をとらえていくことができた。

(3)　児童が対話可能な「人」を設定する

新型マーチ開発の総責任者Ｈさんを対話の相手として設定することにより，児童は自分の願いを現実のものにしてくれる「人」の存在を改めて実感することができた。また，Ｈさんに語らせる自作資料を児童に与えたことにより，児童はこの資料を通して，Ｈさんとかかわり，Ｈさんたちのような開発に携わる人々の苦労や工夫について実感的に理解していくことができた。

(4)　自分なりの考えを明確にもてたＭ児

マーチという自動車の生産の飛躍的な伸びという変化の背景には，人々の願いがあり，その願いを実現するために，自動車の開発に携わる人々は努力や工夫をしているということを，Ｍ児は自分の課題を追究しながら気付いていった。変化の原因の予想は児童一人一人様々であり，Ｍ児はこれを友達と情報交換して学び合い，自分なりの考えを明確にもつことができた。

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

○３つの視点からつくられた教材は，児童の多様な考えを引き出すことができた。その多様な考えを交換し合うことにより，児童が互いに学び合いながら学習を進めることができた。

○教材化の３つの視点は，どれも児童の考えを深め，自分なりの考えを明確にもたせるのに効果的であった。「児童の感覚」は，特に発見・明確化の過程で，「社会の変化の視点」と「対話可能な『人』の設定」は，発見・明確化の過程，追究・概念化の過程ともに有効であった。

2　今後の課題

○「児童の感覚」の見取り方と教材への生かし方について，他の単元についても研究を深めたい。

○「社会の変化」がますますその速度を速め，内容も複雑になっている今日，どのような「変化」を取り上げ，どのような形で児童に見せていくのか，考える必要がある。

研　究　主　題　　＜第５学年Ｂ分科会＞

産業や環境保全に携わる人々の生き方に迫る教材開発の方法

Ⅰ　研究主題設定の理由

今日の社会は，科学技術の進歩や情報化により，省力化・無人化が進み，働く人の営みが従来より見えにくくなっている。そのために，児童は，様々な人とのかかわりの中で自分の生活が成り立っているという意識が薄い。また，「いじめ」に象徴されるように，児童同士の人間関係の希薄さも指摘されている。したがって，社会科の学習を通して人の姿を見せていくことが大きな教育的課題の一つであると考えた。

社会科には，人間の営みや生きざまに触れさせ，共感的な理解を図り，人間理解を深めていくという教科の特質がある。第５学年の学習指導要領にも，様々な産業に従事している人々の工夫や努力に気付かせる指導を行うように明示されている。したがって，社会科の学習の中で，人間の具体的な姿を学ばせることは必要であると考えた。

以上のことから，本分科会では，働く人の営みという視点から教材の開発を行うことにした。第５学年で扱う様々な産業や環境保全の単元には，自分自身や世の中の人々の生活をよりよいものにするために，工夫や努力，苦労をし，また願いをもって生きる人々の姿が見られる。本分科会では，「人」を「教材となりうる具体的な人物」と押さえ，「人」の生き方を児童が共感的に理解する力を育てていきたいと考えた。さらに，児童が自分の生き方を問い直し，よりよく生きていく力を身に付けてくれることが私たちの願いである。そのために「人」の生き方に迫るための教材開発について研究を進めようと考え，標記の研究主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

産業や環境保全に携わる人々の生き方に迫るには，どのように教材を開発したらよいのかを明らかにする。

Ⅲ　研究の仮説

学習で扱う「人」の選定と，「人」と学習活動との組み合わせを重点に教材開発をすれば，産業や環境保全に携わる人々の生き方に迫る児童を育てることができるだろう。

Ⅳ　研究の内容

１　研究主題に迫る手だて

本分科会では，教材となりうる具体的な「人」を以下の方法によって選定することで，働く人々の生き方に迫る学習ができると考えた。

(1)　「人」を選定するときの留意点（第一のフィルター）

◎　自分とのかかわりで考えられる「人」を選ぶ

具体的な「人」を選定する際，児童がその「人」の生き方に感動し，考えられるように「人」との対話を通して，自分と比べたり，自分の生活の中の出来事と関連付けたりできるようにした。

○　産業や環境保全の社会的意味がとらえられる「人」を選ぶ

「人」の生き方を情意面のみでとらえたり，単なる工夫や努力で理解したりするのではなく，資料等を活用しながら，あるいは，体験を通しながら，社会における意味もと

らえられる「人」を選ぶことにした。

○　身近にとらえられる「人」を選ぶ

常に距離的に身近な「人」を選定することは難しい。そこで，その「人」との出会わせ方や学習活動の工夫によって，心理的に近づき，身近にとらえられる「人」を選ぶことにした。

(2)　「人」を選定するための生き方の５観点（第二のフィルター）

学習指導要領にある「人々の工夫や努力」は，生産システムを伝えるための一つの手段であり，「人」の生き方に迫る教材を開発するには，更に新たな観点が必要であると考えた。そこで，これまでの実践について検討し，生き方の観点を下記の五つにまとめた。

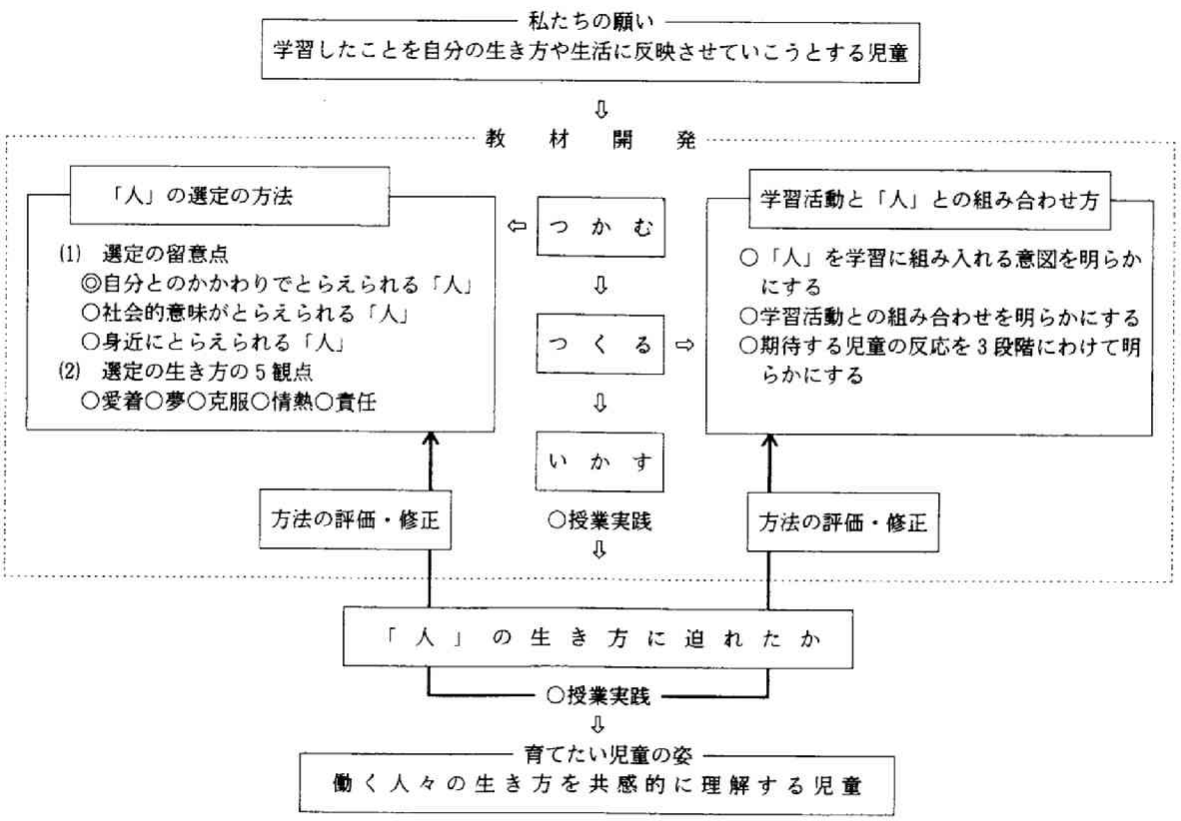
愛着…ものに対する思いや慈しみ	夢…技術の向上や将来の展望
克服…困難を乗り越える努力	情熱…仕事に対する意気込み
責任…他者に対して果たすべきこと	

第一のフィルターを通過した「人」を，更にその五つの観点に照らし，児童にとらえさせたいその「人」ならではの生き方を明確にした。そして，表に整理し，教材になりうる具体的な「人」を選定した。

(3)　「人」と学習活動との組み合わせ

選定した「人」の生き方に迫らせるには，学習活動と組み合わせていくことが不可欠である。そこで，「人」と学習活動の組み合わせ方を表にまとめ，その在り方を明らかにした。また，評価・分析のための「期待する児童の反応」も明示した。

2　研究の構造



3　実践例　「放送に携わる人々」の教材開発

(1)　実践の概要

①　【つかむ】……「人」の選定

ｱﾅｳﾝｻｰ，ﾃﾞｨﾚｸﾀ，ｷｬｽﾀｰ，放送作家，ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ，ｶﾒﾗﾏﾝ，ｽｲｯﾁｬｰ，俳優，タレント，レポーター，メイク，衣装，ＡＤ，大道具，美術，編集，広報

ア．留意点

様々なテレビ番組のうち，娯楽性があり学級の児童も親しんでいるドラマを制作している現場が学区域の近くにある。
したがって，足を運んで見学することが可能であるとともに，そこで働く「人」との対話も可能である。このような身近さや自分のかかわりでのとらえやすさに，まず着目した。
また，そこで働く人々は，視聴者の要望に応じた最高の番組を提供しようと努力し，どのスタッフも自分の仕事に誇りと責任をもって番組作りに励んでいると考えられる。こうした個々のスタッフの協力態勢が整ってこそ番組作りが成立するのだろう。このような社会的な意味を，資料の活用や体験を通してとらえやすいという点も考慮し「人」を選んだ。
↓
ドラマ制作に携わるカメラマン，スイッチャー

イ．「人」のとらえさせたい生き方

番組作りに携わる人々	愛着	夢	克服	情熱	責任
スイッチャー　Ｃさん			○	○	○
・自分の技術は長年の経験から身に付いたという誇りがある。					
カメラマン　Ｂさん			○	○	○
・精神的にも肉体的にもきつい仕事だが，好きだからがんばれると思っている。					
Ｙテレビ所属のカメラマン　Ｄさん	○	○			○
・かつては現場で労力を惜しまず働いていたという誇りがある。今は後輩の育成に努めている。					

②　【つくる】……「人」と学習活動との組み合わせ

登場する「人」	「人」を組み入れる意図	学習活動との組み合わせ	期待する児童の反応		
			事実をとらえる	事実を基に考える	社会的意味に気付く
＜ドラマ制作スタッフ＞ 番組の終わりに，役者の配役とともに名前が打ち出される。	テレビに映し出される映像の裏には多くの人がかかわっていることに気付かせる。	放映されるドラマの１シーンを撮影するのに，何人の人がかかわっているかを予想する。　【つかむ段階】	・多くの人たち（約60～70人）が協力して一つの番組を作りあげている。	・スタッフの仕事にはどのようなものがあるのだろう。	
＜カメラマンのＢさん＞ 42歳。カメラマン暦18年。序列会社のカメラマンの世界で，チーフカメラマンを努める。	具体的なスタッフの仕事の内容を理解し，働く人の姿に迫るための視点をもたせる。	ドラマの１シーンのＶＴＲを見て，数台のカメラが撮った映像が，スイッチャーによって切り替えられていることを確認する。 【つかむ段階】	・ＶＴＲに収録される画面については，全責任があるんだ。 ・自分だけが勝手にいい絵を撮っても仕方がない。全体を考えないといけない。 ・カメラマンの指導は厳しいんだな。 ・カメラを持って，咄嗟に判断して，きびきび動ける体力や運動神経が必要。	・カメラマンが手を抜くとその前に準備したものがすべて無駄になる。 ・他のカメラの映像も気にしないといけないなんてチームワークが大切だ。 ・好きな仕事だから頑張れるんだ。 ・普段から，体力作りや健康管理に気を付けないといけないんだ。 ・自分が撮影しながら，どうやって他のカメラも見ているのかな。	・どのスタッフも，自分の仕事に誇りと責任をもって，番組作りに励んでいる。
＜スイッチャーのＣさん＞ カメラを10年ほど経験した後スイッチャーになる。４台のカメラがバラバラに送ってきた映像を一瞬のうちにひと続きの映像につなげる。		文章資料から，カメラやスイッチャーの仕事を理解し，スタジオ見学の視点をもつ。 【つかむ段階】	・いくらカメラが決定的瞬間を撮っていても，その瞬間にそのカメラに切り替えてなければ意味がない。 ・演じ手のアドリブも入るので，スリルがある。	・長年の経験からに身に付いた勘が必要みたい。 ・カメラマンとも息が合ってないといけないだろう ・責任重大だけど，やりがいがありそうだ。 ・瞬間の手の動きが早そうだ。見てみたい。	
＜ＹテレビのＤさん＞ Ｙテレビ所属のカメラマン	スタジオで実際に機器の操作やスタッフの仕事の説明をしていただき，番組作りに携わる人々の生き方に迫らせる。	スタジオを見学し，局の人の話から，撮影現場でのスタッフの工夫や努力を追究する。 【追究する段階】	・すごい機器がそろっている。 ・一つのスタジオにいろいろなセットがある。 ・一つのシーンを撮るのにいろいろな役割分担がある。	・どうやって操作するのかな。 ・空間をうまく利用しているな。 ・一部でもうまくいかないと番組は台無しだ。 ・番組を作っている人々の願いは何だろう。	・番組作りは，スタッフの協力体制が整ってこそ成立する。
		これまで学習して思ったことや考えたことを手紙に書いてまとめる。 【まとめる段階】			・ドラマ作りに携わる人々は，視聴者の要望にこたえた最高の番組を提供しようと努力している。

③　【いかす】……授業実践

＜教材開発の方法の評価・修正＞

＊フィードバック

←選定の留意点

○スタッフ名を数えることで，多くのスタッフが携わっていることに着目できたが，番組が児童にとってなじみが薄く，児童は，教材にあまり関心を示さなかった。
↓
★「人」の選定の留意点として，心理的な身近さも考慮する必要がある。

←とらえさせたい生き方の表

○ペープサートで得た情報から見学のポイントを絞ることができた。
・両者の関係【責任】
・カメラマンの魅力【情熱】
・経験・迷い【克服】
・普段心掛けている点【情熱】【責任】
このことは，児童にとらえさせたい生き方を表によって明確にしたことの成果として評価できる。しかし，一方で，見学後の感想に視聴者の視点が入っていなかった。
↓
★5観点のうち，どの生き方からとらえさせたらよいのかの分析が必要である。

←「人」と学習活動との組み合わせ表

○カメラマンDさんと組み合わせた学習活動は，インタビュー，番組作りの模擬体験，手紙を書くことなどである。これらの学習活動の工夫から，Dさんを，自分とのかかわりをもちながら，身近に感じられるようになった。しかし，Dさんの生き方を共感的に理解するには，あと一歩のところである。
↓
★「人」と学習活動の組み合わせ表を基にしてDさんとの対話やその立場に立つことを促す見学や表現活動を設定することができた。更に，共感的な理解に導くためには，とらえさせたい生き方に照らした学習活動を吟味していくことが重要である。

⇦

＜学習の流れと児童の姿＞

過程	時	主な学習活動と内容	児童の反応
つかむ	1	○テレビ番組表を色分けしながらテレビ局の数，放送時間，番組の種類を調べ，テレビの役割について話し合う。	・テレビ局の人は，みんなにテレビを見てほしくて，いろいろな工夫をしている。
	2	○ドラマ番組を具体例にして，1シーンを撮影するのに，何人の人がかかわっているかを予想する。 ○番組作りに携わる人々の仕事の内容を資料を基に調べる。 ○画面がスイッチャーによって切り替えられていることを確かめる。 ○カメラとスイッチャーの人の話をペープサートで見て，分かったことを発表し合う。 ○学習問題をまとめる。	・画面に出ているのは2人だけれど，もっと多くの人がいる。 ・20人，30人，100人くらいかな。 ・番組の最後に出る名前を見れば分かるよ。 ・数えてみよう…42…59，あ，多摩スタジオってかいてある。 ・カメラ，照明，大道具…などいろいろある。 ・1回，2回，…すごい，15回。 カメラマン ・セットができてから撮るので責任重大。 ・チーフは貴重な場面を撮る。 ・他のカメラを見ながら撮る。 スイッチャー ・カメラの経験が必要 ・迷ったりまちがえたりしないように，台本をよく読む。 いいドラマを作るために，スタッフの人たちは，どんな工夫や努力をしているのだろう。
追究する	3 4 5	○見学前に取材メモを準備する。 ○スタジオの見学や局のDさんの話から，撮影現場でのスタッフの工夫や努力を理解する。	カメラマン ・他のカメラが撮っているのは，どこから見るのですか。 ・どうなるとおこられるのですか。 ・カメラマンの魅力は何ですか。 スイッチャー ・スイッチはいくつくらいあるのですか。 ・どんな，経験が必要なのですか。 ・切り替える時，迷ったことはありますか ・特に大変なことは，どういうことですか ・心がけていることは，どんなことですか。 ・いろいろな人たちが，一生懸命仕事をしていることが分かった。 ・みんな大変そうだなと思いました。たぶん，俳優より大変だと思う。 ・一つのドラマを作るのに，何人もの人が協力しているのがよく分かった。
	6 7	○自分たちで作る番組について「制作会議」を行う。 ○各グループで「スタッフ打ち合わせ会議」を行う。 ○ビデオ撮影をする。	自分たちも番組を作って，Dさんに見てもらおう ・Dさんに学校の特色を宣伝しよう。 ・グループを三つぐらい作って，それぞれにテレビ局の名前をつけよう。 ・3局とも同じ内容じゃつまらないよ。 ・カメラの切り替えを工夫しよう。 ・台本に書き込まないと分からなくなるよ。
まとめる	8	○出来上がった「番組」を視聴し評価し合う。 ○自分たちの撮影に番組を見ていただくために，Dさんに手紙を書く。	・たった5分の番組を作るのに，打合せから撮影まですごく時間がかかった。 ・グループの中でチームワークが必要だった。 ・番組は，見る人のことを考えて作ることに意味があることが分かった。

(2) 考察

① 「人」の選定

学区域近くのスタジオで制作されたドラマの一場面を児童は視聴したが，期待したほど驚きをもった反応は示さなかった。

距離的に近いという理由から，児童はスタジオとそこに携わる人々とを身近にとらえることができるだろうと考えたのだが，「人」の選定の留意点として心理的に身近さも考慮していくことが必要であることが分かった。本実践では児童にとってなじみのある番組を素材として選択することも考えられた。

② 「人」と学習活動との組み合わせ

スタジオに携わる多くの人々の中で，カメラマンとスイッチャーを生き方の5観点に照らしたとき，児童にとらえさせたい生き方の一つとして，お互いの他者に対する責任が明確になった。そこで，資料提示の工夫としてペープサートを使い，これによって二人のそれぞれの役割を強調したり，二人の連携を児童に視覚的にとらえさせたりした。これによりスタジオ見学の事前の疑問や事後の感想も期待するものとなった。

しかし，5観点のどの生き方から児童にとらえさせたらよいのかという分析と，その生き方をとらえさせるための児童の具体的な学習の姿を明らかにすることが「人」の生き方に迫る教材を開発する上で重要であることが本実践から明確になった。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

○ 「人」を選定するための留意点及び生き方の5観点を設定することにより，教材となりうる「人」が明確になった。

○ 「人」と学習活動との組み合わせを考えることにより，児童にとらえさせたいその「人」ならではの生き方が明確になった。

○ 期待する児童の反応を3段階に分けて記述することにより，児童が「人」の生き方にどこまで迫れたかを把握しやすくなった。

○ 体験的な学習活動を位置付けることにより，児童が実感をもって理解し，「人」の生き方に迫りやすくなった。

2 今後の課題

○ 期待する児童の反応を基にして見取った一人一人の姿に対し，どのような支援をしたらよいのか，その方法を明らかにする。

○ 今年度の実践を基にして作成した年間計画を更に検討しながら，生き方の5観点が妥当であったかを吟味する。

研究主題　＜第６学年分科会＞

児童が互いにかかわり合いながら，自分なりの見方や考え方を深める学習活動の工夫
－多様な考えを引き出す教材を通して－

Ⅰ　研究主題設定の理由

本分科会では，以下の３つの理由から標記の研究主題を設定した。

その一つめは，「生きる力」の大切さである。これからの学校教育に求められているものは，社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる心豊かな人間を育成することである。第６学年の歴史学習においても，歴史的事象や歴史上の人物との出会いとかかわりを通して歴史に対する理解と愛情を育て，児童にこれからの社会を生きていくための「生きる力」を身に付けさせていくことが大切である。

児童一人一人が主体的，創造的に生きていくためには，自分なりの見方や考え方をもって判断し，行動できるようにすることが重要である。そのために，自ら学ぶ意欲や思考力，判断力，表現力などの資質や能力の育成に力を入れていく必要がある。

その二つめは，「教材の大切さ」である。児童の多様な思考力を沸きたたせ，自ら主体的に追究していこうとする意欲を喚起するためには，児童がよい教材に出会うことが大切である。教材の開発を行うと共に，教材の見直しを行う必要がある。そこで，本分科会では，児童が多様な考えをもつことのできる教材を精選し，児童が，かかわり合いを通して，自分なりの見方や考え方を深める学習活動の工夫についても明らかにしていきたいと考えた。

その三つめは，「かかわり合いの大切さ」である。児童が自ら考え主体的に判断していくためには，他の児童や社会の中で生きる人々とのかかわり合いは欠かすことができない。なぜなら，他者とのかかわり合いを通して，自分とは違うものの考え方を知ることで自分の考えが揺さぶられたり，他者の考えがヒントになって，自分の考えが更に深まったりすることがあるからである。

また，激しい変化が予想される社会の中で，他者である友達とのかかわり合いを学習の中に取り入れていくことは，これからの「生きる力」の育成にもつながる重要なことであると考えている。

Ⅱ　研究のねらい

・どのような教材を用いたら，児童が互いにかかわり合い，自分なりの見方や考え方が深められるのかについて明らかにする。

・児童が互いにかかわり合いながら，自分なりの見方や考え方を深める学習活動の在り方を明らかにする。

Ⅲ　研究の仮説

多様な考えを引き出す教材を通して，かかわり合いの段階を踏んだ学習活動を工夫することによって，児童は主体的に問題を追究し，自分なりの見方や考え方を深めていくことができる。

Ⅳ　研究の内容と方法

1　「教材」について

本分科会では，「自分なりの見方や考え方を深めていける児童の育成」を目指す児童像としてとらえ，実践の分析を重ねながら仮説の検証を進めた。そのために「教材」と「学習活動」の２つの面から，児童の変容を確かめていくように考えた。

本分科会では，児童の多様な考えは，以下に挙げたような要素を含んだ「よい教材」に児童が出会う時に引き出されてくると考えている。ここに挙げたことが，それぞれの教材にすべて網羅されていなければいけないということではなく，教材を選択していく時に，この要素が一つでも多く含まれているようなものを用意するように心がけたいと考えている。

また，本分科会では，各単元ごとに，教材の見直しを行い，「児童の多様な考えを引き出す教材と資料」の一覧を作成した。

児童の多様な考えを引き出す教材の要素

要　　素	どのようにとらえているか
先行経験が生きる	これまでに経験したことと関連付けたり，既に学習した前の時代と比較しながら考えを深めていくことができるようなもの。
驚きが生まれる	今まで知らなかったことを知った時に得る驚きや意外性，今までの自分の知識との矛盾が基になって驚きを生み出すようなもの。
生き生きと活動している人の姿が見える	その時代の中で，人が何を願って活動したのか具体的な生き様が見えてくるようなもの。人物の生き様を通してその時代のイメージをとらえられるもの。
身近にとらえられる	地域教材のような空間的な身近さだけでなく，児童にとっての心理的，時間的な身近さ。更に見たり，触ったりできる感覚的な身近さが感じられるもの。
対立した考えが出る	児童にとって，これまでの常識がくつがえされ新しいものが生み出されると予想されるもの。いくつかの解釈があったり，別の立場からも考えられるもの。
体験活動ができる	直接体験だけでなく，模擬体験，疑似体験など具体的な体験活動を通して，児童の中からいろいろな考えが出てくることを期待できるもの。

2　「学習活動」について

本分科会では，自分なりの見方や考え方を深めるためには，児童相互のかかわり合いが大切であると考えている。学習の中で，かかわり合う場面が多くなればなるほど，友達の多様な考えにも触れることができ，自分なりの考えを深めていくことができると考えた。

児童相互のかかわり合いの様子をこれまでの授業実践の中から分析した結果，大きく3段段階の学習過程を設定し，学習を進めていくようにした。

児童相互のかかわり合いの段階を踏んだ学習活動

学習活動の段階	学習活動のねらい	形態	活動例
第一段階 問題を発見するための学習活動	・友達とかかわり合いながら様々なことに気付き，自分なりの追究課題をつかむ。 ・友達のたくさんの気付きに出会うことで，更に問題を発見し明確化する。	・グループ内での交流 ・クラスの中での交流	（考えの発表） ・ノート ・ワークシート ・カードなど
第二段階 問題を追究するための学習活動	・友達とかかわり合いながら，友達のよいところを学び，自分なりの見方や考え方をもつ。 ・同じテーマのグループで調べたり，異なるテーマのグループと情報交換をしながら，自分なりの見方や考え方をもつ。	・同じテーマのクループの中での交流 ・異なるテーマのグループとの交流	（調べる学習） ・調べる ・確かめる ・まとめるなど （情報交換） ・情報タイム ・情報コーナー ・中間報告会など
第三段階 問題を深めるための学習活動	・いろいろな立場で友達とかかわり合いながら，自分なりの見方や考え方を深める。 ・自分なりの見方や考え方を発表したり，友達の見方や考え方を聞いたりして，互いにかかわり合う中で考えを深める。	・クラスの中での交流	（発表会） ・発表会 ・レポート報告会 ・パビリオン形式 ・劇 ・紙芝居 ・ペープサート ・ニュースなど （話し合い） ・ディベート ・討論会 ・選挙 ・裁判　など （掲示・展示） ・壁新聞 ・広告 ・パンフレット ・本 ・マンガ，イラスト ・手紙 ・絵年表など

V　仮説の検証「江戸のまちを探ろう」（7時間扱い）授業実践より

次	時	主な学習活動	教材のもつ効果
問題を発見する	1	・現在の東京のまちと江戸のまちを比較して，歴史を探る糸口を見つける（本時） 個人で気付き，考えをもつ 友達との対話，グループでの交流 クラス全体での交流	・先行学習の成果が生きた。 ・一つのことからたくさんの方向へと気付きが生まれた。 ・自分たちの地域にある歴史に改めて身近さを感じることができた。 ・地名の不思議さなど，意外性を抱かせることができた。
	2	・江戸のまちを探る視点を整理する。	
		江戸のまちの秘密を探り， （自分なりの追究をする）	
問題を追究する	3	・課題別グループを作り，追究する。	・実際に歩いて見学したり，聞き取りをしたりできた。
	4	農民・庶民のくらし　水の確保 武士や大名の生活　幕府の政治 など	
	5	・意見交換する。 （自分なりの見方・考え方をわかり合う）	・江戸のまちを中心にすえたことで，共通の追究課題をもち続けることができた。
問題を深める	6	・調べたことをもとに，自分なりの考えを発表する。	・地名のもつ意味の歴史的な見方を育てることができた。 ・「江戸のまち」を入口にして時代のイメージをつかんでいくことができた。
	7	・自分なりの考えを整理する。 （対立・同意見等で思考が深まり，自分なりの考えを深める）	・「江戸のまちづくり」という視点から時代像をとらえることができた。

かかわり合いの例	○支援と◇評価
・古地図に描かれている事実から歴史性のある事柄を見つけだす児童がいた。 ・歴史的な意味をもつ発見にいたることができた。 ・方角など，現在とは違っているものに気付くことができた。 ・地図の情報性を発見できた。	○「江戸城」構想図，「江戸古地図」，「現在の地図」を用意する。 ○歴史を探るヒントになるものを用意する。 ワークシート 発表 ◇自分なりに視点をつかめたか。
江戸時代の素晴らしさを見つけよう	
・同じ視点のグループなので，資料の共有化や分担化など能率的にできた。	○視点の同じ者同士でまとまる。
道の様子　文化の様子　地名の秘密 まちの様子　苗字や家紋について	
・共通の視点をもつグループをはじめ，他のグループとも情報交換し，それぞれのよさを学ぶことができた。	○情報コーナー，助言コーナー，資料コーナー，ビデオコーナーなどの利用
・歴史的学習の奥深さを学ぶことができた。 ・学び合うことの大切さ，協力，友達のすばらしさなどを学ぶことができた。 ・意見を出し合うことの重要性を知ることができた。 ・自分の知らなかったことを友達から得ることができた。	○調べたことにより何を考えたか，発表を聞いて何を考えたかがはっきりするようにする。 （パビリオン形式，新聞展示，討論，パネルディスカッションなどで） ○感想カードなどにまとめ掲示する。 ◇各自評価カード（付せん紙）に記入することができたか。

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

○　単元毎に「多様な考えを引き出す教材」を吟味し提示することで，児童は，意欲的になり，様々な発見をし，その時代に対する考えをもつことができた。

○　「多様な考えを引き出す」という観点をもって教材と資料を見直し，整理することができた。

○　学習過程に沿って，3段階のかかわり合いの場を設定することで，児童は，友達の気付きや考えを積極的に取り入れながら，主体的に学習課題を追究し考えを深めることができた。

○　児童は，かかわり合いの中で意欲的に情報交換をしながら，自分の見方を広げ自信を深めた。また，互いに学び合う中で友達への共感が深まった。

2　今後の課題

○　自分なりの見方や考え方を深めるために，「多様な考えを引き出す教材」の学習過程への位置付けと提示の仕方を，更に検討していく必要がある。

○　自分なりの見方や考え方を深めるために，かかわり合いの中から更に新しいものが生み出されるような学習活動の在り方や支援の在り方も検討する必要がある。

Ⅶ　資料・児童の多様な考えを引き出せる教材と資料一覧（部分）

単元名	ねらい	教　材	資　料	引き出せる考え	先行	驚き	人姿	身近	対立	体験
大きな墓を作った人々	・大きな古墳を作ることができた人々が生きていた時代についての関心をもち，それらの人々がどのようにして国々をまとめていったのか進んで調べることができる。 ・大和朝廷が日本を一つにまとめていった過程について理解することができる。	大昔の人々の暮らし	・縄文式土器の模型 ・弥生式土器の模型	・形，模様　・製造方法 ・使い方　・生活（狩り，採集，食事，道具つくり，服，墓，貝塚）		○	○	○	○	○
		稲作	・登呂のむら想像図 ・登呂のむらの出土品の写真（土器田げた，木のうつわ，など）	・稲作の様子（田植え，稲刈）　・竪穴式住居 ・高床式倉庫　・木製の道具　・むらの暮らしとかしら　・祭り（青銅の道具）		○	○	○	○	○
		古墳	・古墳の航空写真 ・埴輪の模型 ・前方後円墳の分布図	・古墳の大きさ，形，分布　・豪族の存在（権力やむら）　・大陸文化の流入（土木技術）　・大和朝廷（むらからくに，大王）　・邪馬台国（卑弥呼）	○	○			○	
			・稲荷山古墳の鉄剣の写真 ・銅鐸，銅剣銅鉾，銅鏡の写真	・大陸文化の流入（鉄器，土木技術，織物など） ・渡来人　・漢字　・仏教　・権力者		○			○	
源頼朝と鎌倉武士	・源頼朝や鎌倉武士の活躍により，鎌倉幕府が成立したことに関心をもち，源平の戦いや武士の生活などを調べたり，表現したりする活動を通して，武士を中心とする新しい世の中について理解するとともに，自分なりの考えをもつ。	源頼朝	・源頼朝肖像画	・姿　・表情　・生い立ち　・征夷大将軍　・鎌倉幕府			○			
			・源平合戦図	・源平の戦い（赤対白） ・源義経　・平清盛 ・源氏と平氏		○	○		○	
		武士のくらし	・武士の館	・館のつくり　・農村での生活　・質素　・武芸の稽古　・質実剛健	○		○	○	○	
			・弓　矢　鞍　刀　鎧	・武士の戦い方法		○	○			○
			・鎌倉街道の地図 ・鎌倉の写真 ・関東平野の街道図	・地形（山地，切り通し）・若宮大路　・鶴ケ岡八幡宮　・交通の要所 ・東国武士団		○		○	○	
			・鉾の木（物語）	・一所懸命　・主従関係（ご恩と奉公）		○	○		○	
		元寇	・フビライの手紙 ・元軍の経路図	・北条時宗　・兵力 ・勢力		○	○		○	
			・竹崎季長絵詞（物語と絵）	・集団戦法　・武士の戦いぶり　・鎌倉武士の苦戦　・台風（神風）		○	○		○	